

二〇一九年七月五日

街灯の昼も灯ともる梅雨最中
さつき

五月雨や石畳蹴る下駄の音
素 秀

犬小屋の軒にも蚊遣吊しあり
さつき

大緑蔭なせる大楠太極拳
素 秀

行く末の事など話し夕端居
たか子

二〇一九年七月四日

黒塀の路地に梶子匂ひけり
素 秀

終ひ湯の窓に守宮や見ないふり
なつき

一村を抱きて四圍の茂りかな
たか子

二〇一九年七月三日

甚平や悪がき今は好々爺
やよい

浜木綿や一湾望む遭難碑
宏 虎

蔦茂る昔ながらの喫茶店
さつき

二〇一九年七月二日

古民家の出窓に通ふ風涼し
さつき

栄螺籠載せて軽トラ潮垂るる
さつき

夏木洩る日の斑を踏みて朝散歩
隆 松

で虫這ふ道の真中をはばかり
明日香

二〇一九年七月一日

産土の險磴百段梅雨じめり
はく子

二〇一九年六月三〇日

良く通る祝詞にくぐる茅の輪かな
はく子

扇風機強より上は無かりけり
せいじ

四阿の屋根を震はす牛蛙
ぽんこ

二〇一九年六月二九日

登り来て涼気ただよふ滝しぶき
やよい

毎日句会みのる選・二〇一九年七月七日